

上秋津区域の治山対策に関する技術検討会（第3回：最終回）の概要

※第3回の検討会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面会議で開催しました。

1 開催方法

5月末～6月末に電子メールにて資料を送付し、各委員からの意見を集約し、検討会の成果として取りまとめました。

2 議事

- (1) 検討内容及び第2回検討会の指摘事項とその対応
- (2) 発生機構
- (3) 観測結果
- (4) 基本方針及び対策方針

3 書面会議関係者（検討委員及びオブザーバー）

<検討委員>（五十音順・敬称略）

江種 伸之 和歌山大学システム工学部 教授

岡本 隆 （国研）森林研究・整備機構森林総合研究所
森林防災研究領域山地災害研究室 室長

松浦 純生 京都大学防災研究所 教授

<オブザーバー>

和歌山県農林水産部森林・林業局

和歌山県県土整備部道路局

和歌山県県土整備部河川・下水道局

田辺市総務部危機管理局

田辺市農林水産部森林局

4 概要

今回が最終回のため、委員からいただいた発生機構や対策方針等についての御意見を踏まえ、「資料4 対策方針」として取りまとめ、委員の皆様の了承をいただきました。

なお、取りまとめにあたりいただいた主な御意見等は次のとおりです。

- ① Aブロックの変位発生を鎮静化させることが最重要だとの意見を踏まえ、今後の調査により更なる地下水帯が確認された場合は地下水排除工を計画することを基本方針で示した。

- ② 変位発生を沈静化させる対策としては、特にせん断面型変位を押さえることが重要であることから、せん断面型変位が明瞭な A1 ブロックを先行して対策の施工（1～4 号集水井工）を進めているが、せん断型変位の分布については不明な箇所も多いため、今後の調査結果を踏まえて対策に活かすことを基本方針で示した。
- ③ 地すべり対策は地下水排除工により確実にすべり変位を抑えていくことが重要であるため、地下水の経路、賦存状況、水理的性質などについて、さらに考察を深める必要があるのではないかとこの意見を踏まえ、引き続き地下水の挙動等について調査観測を進めていくことを基本方針で示した。
- ④ 今後施工予定の 5 号から 8 号集水井工について、設置の目的やどのような場合に施工するのか等を対策方針で示した。また、排水トンネルについては、今後の調査により深層地下水の水位とすべり変位の連動が認められ、効果的な排水が期待できる場合に検討を行うことを対策方針で示した。

5 今後の予定

実施した対策工の効果の検証や、現地の状況及び新たな調査結果に応じた対策の検討を行うため、定期的（年 1 回程度）に有識者・関係機関による検討会を実施していく予定としています。